

次ページへ続く

Continued on next page...

松井家蔵妙庵手沢謡本識語控

熊本県八代市の松井家に伝存する観世流謡本のうち、妙庵手沢本六十冊は、慶長初年書写三百番の揃本としては現存最古に属する謡本である。しかも、多くの曲に校合を施し、かつそれら各曲巻末には、依拠した章句やその校合本に関する識語を記していて、室町末期における謡曲本文の実態や、その系統を考える上で貴重な資料であるとともに、その識語自体が、当時の謡曲界の一端を窺い知る重要な能楽史料であると評価し得る。種々の書き入れを持つ謡曲本文は写真版（国文学研究資料館に整備されている）によるほかはないが、墨・別墨・朱・別朱・黄等で書き分けられた本文・識語は、写真版においてもなお判断し難い場合が多い。今ここに識語を翻印せんとする目的は、それ自体の史料性はもとよりのことながら、写真版利用にあたっての右のごとき難点を多少なりとも補うことにある。

妙庵は細川幽斎の三男幸隆、元龜二年生れ、慶長十二年十一月一日三十七歳で歿した。慶長二年までは曲枕庵中在、同三年七月（細川十部伝書のうち『至花道』奥書による）には妙庵玄又と号している。その伝については、中村格氏「妙庵細川幸隆について」（『宝生』昭和48年7・8・同49年2月号）に詳しい。

妙庵手沢本は、縦一七八糎、横二二七糎の鳥の子列帖装五番綴本六十冊（但し第六十冊目は六番、第十冊目は別に「舟の立合」「弓矢立合」を付載）、都合三百三曲を収め、十冊宛を二段三列の抽出函に収蔵する。薄茶色の紙表紙には、上部に五番（第六十冊目は六番）の曲名を列記し、左端中央に冊次を記す。また曲名下、中央に「窪」又は「別」と記し、右端下部に「曲枕庵中在」又は「妙庵玄又」の署名、ならびに「隴西郡記」の角印を墨で押捺する。

本文は、四行どり、一行約十五六字と頗る余裕をもたせており、当初より行間に校合補筆を前提とした筆写である。本文の筆者は不明であるが、書き入れはすべて妙庵の手であろう。また、各冊の巻末には次のごとき三種類の奥書がある。

- | | | | |
|-----|---------------------|--------|------------------|
| (甲) | 式百番之内 ^{本云} | 窪田藤兵衛尉 | 統泰 ^{在判} |
| | 大野甚六殿 ^参 | | |
| (乙) | 三百番之内 | 曲枕庵 | 中在（花押） |
| (丙) | 三百番之内 | 妙庵 | 玄又（花押） |

この奥書は、表紙の記事と対応している。それを分類して示せば次の

通りである。(数字は各冊の冊次を示す)

- (イ) 表紙中央に「窪」、右下に「曲枕庵中在」とあり、巻末に(甲)(乙)の奥書をもつもの、二十五冊——一・二・三・五・六・七・八・九・一〇・一三・一四・一六・一七・一八・一九・二〇・二二・二三・二四・二五・二六・二八・二九・三〇・三一(なお、一八・二八は二ヶ所に(甲)を記す。また二・二一の二冊は表紙に「窪」を欠く。)
- (ロ) 表紙中央に「別」、他は(イ)に同じ、二冊——二三・二七
- (ハ) 表紙中央に「別」、右下に「曲枕庵中在」とあり、巻末に(乙)の奥書をもつもの、十五冊——三二・三三・三四・三五・三六・三七・三八・三九・四〇・四一・四二・四四・四五・四六・四七
- (ニ) 表紙中央に「別」、右下に「妙庵玄又」とあり、巻末奥書が(ロ)であるもの、十八冊——四・一一・一二・一五・四三・四八・四九・五〇・五一・五二・五三・五四・五五・五六・五七・五八・五九・六〇

表紙中央の「窪」とは、奥書(甲)に見える窪田統泰本(大野甚六が窪田統泰より伝受した本)に基づくことを意味し、「別」はそれとは別本に基づくことを意味するであろう。とすれば、右の(ロ)種は(甲)の奥書を持つ以上、当然(イ)種に属すべきであり、表紙に「別」と記されているのは単純な誤りと思われる。(イ)種の内に「窪」を欠いたり、(ニ)種中に若い冊次番号を付したりするのも同様の誤りであろう。それについて、奥書(乙)(丙)は、書写の完了の時点で施された妙庵の署名と考えられるが、同時に表紙にも署名を付し、全六十冊が揃った後で、「窪」又は「別」と、冊次を各表

紙に加筆したかと推測される。窪田本は、奥書(甲)によって二百番の揃本であつたらしいが、(イ)(ロ)二十七冊の中に二百番の全てが写されているわけではない。その理由は明らかでないが、依拠した大野本が不揃いであつたのかも知れない。

妙庵が関与する能楽伝書に細川十部伝書がある。それらについては、能楽資料集成「細川五部伝書」(昭和48年、わんや書店刊)があり、謡本識語と重り合う妙庵周辺の人々についても、表章氏の解説に簡潔に触れられている。また拙稿「大和宗恕小伝」(『論集日本文学・日本語』3中世、昭和53年、角川書店刊)、松岡心平氏「窪田統泰伝——戦国期を生きた画師兼手猿楽者の軌跡——」(『国語と国文学』、昭和56年10月号)、『日蓮聖人註画讃』岩橋春樹氏解説(昭和56年9月、角川書店刊)等の参考文献もある。詳細はそれらに譲って、今は謡本の書誌的事項を略述するに止めた。

(第四室 伊藤正義)

凡例

- 一、ゴチック漢数字は底本表紙に記された冊次を示す。
- 二、曲名は内題による。カッコ内は、(1)外題、(2)見返しの目次の曲名表記を示した。(1)(2)が内題に一致する場合は記載を省略した。
- 三、(3)は墨書・朱書等による他本校合の有無を示す。
- 四、(4)は太鼓手付等、囃子付の有無を示す。(6)に「無章句」と記す場合は、(3)(4)の記載を省略した。
- 五、(5)は本文・節付・間拍子・囃子付・振仮名等に朱書等のある場合を

示す。(3)(4)とも対応するが、墨書と共存し、そのすべてを区別して示すことが不可能であるため、朱・別朱・黄の存在のみを示した。

六、(6)は本文関係事項や間狂言・装束付等の付載を示し、その他の記事は特記しない。(5)(6)に該当事項の無い場合は記載を省略した。

七、最少限の私注をへゝで示した。

八、巻末に曲名索引を付して検索の便宜を計った。

本稿は、国文学研究資料館蔵の写真版に基づくが、特に朱筆等の書分けについては、昭和三十七・八年頃、島津忠夫氏が松井家を調査された折の情報と記録の御提供を得て、昭和三十八年七月、および昭和三十九年十一月、松井家において調査した資料に基づき、今回の翻刻にあたって再確認した。永年にわたる松井明之氏の御厚意に御礼申し上げる。

一

うの羽 (1)うのは (2)鵜羽 (3)有 (4)有 (5)朱

たかさこ (2)高砂 (3)有 (4)有 (5)朱

(朱)「右高砂者観世弥次郎長俊声句以朱付之畢」

右近 (1)うこむ (3)有 (4)有 (5)朱 (6)異文附載

「以妙佐本慶長三三月十日直之」

かんやうきう (2)咸陽宮 (3)有 (4)有 (5)朱 (6)間狂言

「以妙佐本慶長三三月十日直之」

くれは (2)呉服 (3)有 (4)有 (5)朱

(朱)「ソレハ右朱之分観世弥次郎長俊声句写之也」

二

はく楽てん (1)はくらく天 (2)白楽天 (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長三年三月廿日於但馬湯以妙佐本直之」

彼本云

文祿五年六月下旬之比大和宮内入道宗恕尋之、以朱直之。彼本、

観世太夫宗節尋之之由也」

道成寺 (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長三年三月九日以妙佐老本直之」

千引 (1)ちひき (3)無 (4)無

はん女 (1)はむ女 (2)班女 (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長三ノ六十以妙佐老本直之。彼本、被尋観世宗節、被直之本也。是再三云々。其後又、大和宮内入道宗恕被尋之候」

春栄 (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長貳年十月九日以妙佐本直之」

彼本ニ文祿五年五月上旬観世宗節直タル本以大和宮内入道宗恕尋之直ニ分左ニ付之也」(巻頭遊紙に記す)

三

しとう (1)兒とう (2)兒童 (3)無 (4)無

金札 (1)きむ札 (3)有 (4)無

「天文十九年十一月朔日」
観世七郎
長治(花押)
判形スキウツシ

長俊フシヲ付申本ヲモツテナラシ、大野三郎殿へ参候者也」

浦しま (1)うらしま (2)浦嶋 (3)無 (4)無

大さんふくん (1)たいさん府君 (2)泰山府君 (3)無 (4)無

うんりむゐん (1)雲林ゐん (2)雲林院 (3)有 (4)有 (5)朱へ一部

「慶長三年霜廿三日以妙佐直之。彼本、大和宮内入道宗恕

宗節本ニテ被直置本ニテ被直由也」

四

かすい (2)河水 (6)無章句

あらし山 (2)嵐山 (3)無 (4)無

ねさめ (2)寢覚 (3)無 (4)無

つゝみのたき (2)鼓瀑 (3)無 (4)無 (6)部分章句

つるかめ (2)黿亀 (3)無 (4)無

五

恋のをも荷 (1)恋の重に (2)恋重荷 (3)有 (4)有 (5)朱

つちくるま (2)土車 (3)有 (4)有 (5)朱 (6)装束付

あま (2)海土 (3)有 (4)有 (5)朱 (6)仕舞付

「慶長三年五月朔日以妙佐直之」

うきふね (1)うき舟 (2)浮舟 (3)有 (4)有

「慶長三年六月二日以妙佐本直之」

こおう (1)護おう (2)護法 (3)無 (4)有 (6)装束付

六

難波 (1)なには (2)難波梅 (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長三年三月廿三日於但馬湯以妙佐本直之」

真盛 (1)さねもり (3)有 (4)有

「慶長三年三月廿三日於但馬湯以妙佐本直之」

花いくさ (1)はないくさ (2)花軍 (3)無 (4)無

おろち (2)大蛇 (3)有 (4)有 (5)朱 (6)装束付へ朱

もり屋 (1)もりや (2)守屋 (3)無 (4)無

七

あひ染川 (1)あるそめ川 (2)藍染川 (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長四年六月六日妙佐老へ一返相尋申候也」

竹の雪 (1)竹のゆき (2)竹雪 (3)有 (4)有 (5)朱

(朱)「慶長四七十二尋妙佐老者也」

大え (1)大え (2)大會 (3)有 (4)有 (5)朱

「以妙佐老本直之 慶長三五月廿三日」

落ば (1)おち葉 (2)落葉 (3)有 (4)有

蟬丸 (1)せみ丸 (3)有 (4)有 (5)朱 (6)装束付

「慶長三年三月廿日於但馬湯、以妙佐本直之、彼本_云、以洲田聲句本

写之。又天正八庚辰五月於勝龍寺、忠興宗節ニ稽古之時、乞同学

数返合之、以朱直之。

又慶長元年極月廿二日大和三位入道宗恕ニ尋之、違分右ニ以朱付之。彼本、觀世太夫宗節被尋之時被直本也」

八

よろほし (2)透辻子 (3)有 (4)有 (5)朱

(朱)「慶四六十日妙佐老ニ尋之者也」

「此透辻大和三位入道宗恕ニ尋之、相違分以朱付之。吉田次部少輔笑隠軒ニ被尋之由也。彼仁、觀世道堅弟子也。」

右以妙佐本直之。墨ニて直候。即墨點ヲカケタルガ宗恕、笑隠

ニ被尋分也。 慶長四九十三日 玄又(花押)」

舍利 (1)しやり (3)有 (4)有 (5)朱 (6)装束付(朱)

「慶五五廿八若州山本中務入道宗覺ニ尋之所也」

琴(内題下朱書「又号吉野琴」 (1)こと (3)有 (4)有 (5)朱 (6)装束

付(朱)

(朱)「慶五五廿九若州山本中務入道宗覺ニ尋之所也」

まつらかゝみ (1)松浦かゝみ (2)松浦鏡 (3)無 (4)無

たむら (1)田むら (2)田村 (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長三年十二月十四日以妙佐本直之。彼本、宗節本ニテ能ナラシ

タル本也トアリ」

九

けんふく曾我 (1)けむふくそか (2)元服曾我 (3)有 (4)有 (5)朱

調伏そか (2)調伏曾我 (3)無 (4)無

夜うち曾我 (1)夜うちそか (2)夜討曾我 (3)有 (4)有 (5)朱

伏木曾我 (1)臥木そか (2)臥木曾我 (3)無 (4)有

とらをくり (2)虎送 (3)無 (4)無

一〇

三井寺 (1)三井てら (3)有 (4)有 (5)朱・黄

「天正四年之比於勝龍寺宗節ニ令稽古直之。又天正八本云五月宗節ニ

忠秀一反稽古之時、令同学以朱直之」

「右一両斎妙佐老本ヲ以、慶長三年二月廿七日直之」

(黄)「天正九年三月日

觀世入道宗節(花押)

右以平信忠卿此奥書秘本直之者也」

「此三井寺又文祿五年十月廿四日大和宮内三位入道宗恕尋之違

分以朱左ニ付之」(消去跡判読)

かしはさき (2)柏崎 (3)有 (4)有 (5)朱 (6)装束付

「此柏崎、觀世太夫宗節尋之、少々直之。其後文祿五年八月廿日大

和宮内入宗恕ニ尋之、違分以朱付之。彼本、觀世太夫宗節本ヲ

被写之、即被尋候本也。

右一両斎妙佐本を以、慶長三年二月廿八日直之」

「慶長三季八月廿一日 観世七郎長治（花押）観世弥次郎長俊息 紹活弟宗印兄也以声句本直之。是則、長俊声句ニテ付之由也」

「宗節聲句ノ本ニテ」（文末）

すみた川（2）隅田川（3）有（4）有（5）朱（6）装束付

「慶長貳九月八日於但馬ノ湯ニ、尋妙佐老所也。彼本、宗節章句之本也」

玉かつら（1）たまかつら（2）玉鬘（3）有（4）有（5）朱・黄（6）装束付

（黄）「天正九年三月日

観世入道 宗節（花押）
大カアツツシ

右平信忠卿有宗節声句秘本得之以雌黄直之」

哥うら（1）うたうら（2）歌占（3）有（4）有（5）朱（6）装束付（朱）

（朱）「山本中務尉血忠尋之（装束付あり）」

右観世小次郎被聞之云慶長二極月十日 中在（花押）」

舟の立合（1）（2）ナシ（3）有（4）有（5）朱（6）内題下「観世保生」と朱

書

弓矢立合（1）（2）ナシ（3）有（4）有（5）朱・別朱（6）内題下「今春金剛」

と朱書

一一

えのしま（1）江のしま（2）江嶋（3）無（4）無

かしら（1）かしい（2）香椎（3）無（4）無

みもすそ（2）御裳溜（3）無（4）無

いつくしま（2）嚴嶋（3）無（4）無
ちくふしま（1）（2）竹生嶋（3）無（4）無

一二

ゆみやはた（2）弓八幡（3）有（4）有（5）朱

「慶長三年霜十六日以妙佐本直之」

彼本二五右弓八幡、慶長元年十二月廿五日大和三位入道宗恕尋之、違所以

朱付之。彼本、観世太夫宗節被尋時直之本也」

おほやしろ（2）大社（3）無（4）無

けんたいふ（1）けむ大夫（2）源大夫（3）無（4）無

くせのと（1）くせの戸（2）九世戸（3）無（4）無

かつほ（2）合浦（3）無（4）無

一三

めかり（2）和布茹（3）有（4）有（5）朱

鶺鴒かひ（1）うかひ（2）鶺鴒（3）有（4）有

「慶長三年六月九日以妙佐老本直之」

池賢（1）いけ賢（3）有（4）有（5）朱

（朱）「慶長四七月廿二日尋妙佐者也」

りんさう（1）りむさう（2）輪藏（3）有（4）有（5）朱

濱川（1）はま川（3）有（4）有（5）朱

一四

春日りうしん (1) かすか龍神 (2) 春日龍神 (3) 有 (4) 有 (5) 朱・別朱

(別朱) 「天正九年三月日」

観世入道 宗節 (花押)

以右本直之」

(朱) 「右朱声ハ観世大夫内山科弥次以宗節声句本直之処ノ本ヲ以写之畢」

「慶長三參月九日於但馬湯、以妙佐老本直之。是又、宗節声句之本

ト云々」

いたてん (1) いたてむ (2) 韋駄天 (3) 無 (4) 無

遊きやう柳 (1) ゆ行やなき (2) 遊行柳 (3) 有 (4) 有

「慶長三年三月廿四日於但馬湯以妙佐直之」

たんこ物くるひ (1) 丹後物くるひ (2) 丹後物狂 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

「妙佐以本直之也。彼本、宗節章句ト也。慶長六年六月廿三日」

すゝき (2) 鱸 (3) 無 (4) 無

一五

しゆんせいたゝ度 (1) しゆせいたゝのり (2) 俊成忠度 (3) 無 (4) 無

たんしやく忠のり (1) たんさくたゝのり (2) 短冊忠度 (3) 有 (4) 有

「慶長三年極月三日以妙佐本直之」

みちもり (2) 通盛 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

「慶長三年極月四日以妙佐本直之。彼本ニ、宗節直タル本ニテナラ

ス。又、文祿五年八月十二日大和宮内入道宗恕以朱直之。彼本、

観世太夫宗節直タル本也」

きよつね (2) 清經 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

「慶長三年極三日以妙佐本直之」

ともなか (2) 朝長 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

「慶長三年極月十二日以妙佐老本直之。彼老人本者、観世小次郎元頼以聲句本写之。古新右入宗印ニ令字、又天正八庚辰五月於勝龍寺、忠秀宗節ニ稽古之時、令同学刻直之。文祿五年七月上旬之比、大和宮内入道宗恕尋之直之。宗節ニ被尋之由、観世事也」

一六

小蝶 (1) こてう (2) 胡蝶 (3) 有 (4) 有

「妙佐老ヘ一ヘン相尋申候」

かきつはた (2) 杜若 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

(朱) 「慶長三式年九月廿四日妙佐本ニテ直之。彼本、宗節声句ノ本

ニテ被直之。其後又、大和宮内入道宗恕被尋本ト云々」

羽衣 (1) はころも (3) 有 (4) 有

さき (2) 鷺 (3) 有 (4) 有

「妙佐ヘ一ヘン相尋申候也」

たうせん (1) たうせむ (2) 唐船 (3) 有 (4) 有 (5) 朱 (6) 間狂言

「以妙佐老本、慶長三三十一直之」

(朱) 「彼本、大和宮内入道宗恕ニ在。宗節ニ被尋被直之本也」

一七

定家 (1)ていか (3)有 (4)有 (5)朱 (6)太鼓注記

はん魂香 (1)はむこんかう (2)返魂香 (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長四七月廿一日尋妙佐老者也」

蝸 (1)とをる (3)有 (4)有 (5)朱

たなはた (2)織女 (3)無 (4)無

谷かう (1)たにかう (2)谷行 (3)有 (4)有 (5)朱 (6)装束付へ朱

(朱)「本云、慶五五廿九日若州山本中務入道宗覚_ニ尋之所也」

(朱)「永禄年中二若州へ元頼下向之時、詞多々直ル」へ内題の下

一八

くわうてい (2)皇帝 (3)有 (4)有 (5)朱・別朱

「慶長三年三月十六日於但馬湯、以妙佐老一両齋本直之。彼老人本

者、宗節聲句本を以被直置本也」

(別朱)「天正九年三月日 親世入道 宗節 (花押)」

以右本直之」

たえま (2)當麻 (3)有 (4)有 (5)朱・別朱

(別朱)「右以晴元御本紹活聲句直之」

道明寺 (1)道みやう寺 (3)有 (4)有 (5)朱

(朱)「右慶長_{二年十月二日}四七月十日、以妙佐直之。彼本、宗節声句本ニテ大和

宗恕被尋、重而直之本也」

はうしやう川 (2)放生川 (3)有 (4)有 (5)朱・別朱 (6)装束付へ朱

(朱)「慶五五廿八日若州山本中務入道宗覚_ニ尋之所也」

やうらう (2)養老 (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長三参月十九以妙佐老本直之」

一九

あや鼓 (1)あやのつゝみ (2)綾鼓 (3)有 (4)有 (5)朱

とくさ (2)土賊 (3)有 (4)有 (5)朱

(黄)「天正九年三月日 宗節 (花押)」

以右之本直之」

「_{本云}此本賊、慶長元年十一月八日大和宮内三位入道宗恕尋之、違分以

朱付。彼本、親世大夫宗節_ニ被尋時、入念直タル本也。

同三年十一月九日以妙佐老本直之」

(朱)「同極月妙佐_ニ尋之付之也」

しゝ (内題下「又号石橋」へ薄墨) (2)獅子 (3)有 (4)有 (5)朱

(朱)「慶長四七二 尋妙佐老者也」

(黄)「右師子以牛尾玄笛本_{宗節}直之 宗節 (花押) ウツシノ」

まひ車 (2)舞車 (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長三年三月十七日於但馬湯以妙佐御本直之。彼本ニ、若州ヨリ

出タル本写之。天正八庚辰五月於勝龍寺宗節一反尋之、朱以直之。

右文禄五八月六日大和宮内入道宗恕尋之、以朱直之。彼本、親世

太夫宗節ニ被尋直タル本也。宗節能ノ時、ワキラシタルト物語也。

其覺之分少々シルス也。シテヲリエホシヒタ、レ、吉代ニツ出、

向合テ置ト也。ワキスハウハカマ。」

たい木 (1) (2) 大木 (3) 無 (4) 無

二〇

花かたみ (1) はなかたみ (2) 花形見 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

(6) 末尾に「観弥次郎長俊作之」として現行(ノリ地)を付載。

「慶長三六廿一日山口藤左衛門宿ニテ妙佐老ニ尋之直之。是觀世入

道宗節ニ被尋々」

さい (2) 犀 (3) 無 (4) 無

ありとをし (1) あり通 (2) 蟻通 (3) 有 (4) 有 (6) 異文付載

「慶長三年八月廿八日妙佐ケイコノ分写之」

たんふう (1) たむふう (2) 國風 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

草なき (2) 草薙 (3) 有 (4) 有 (5) 朱 (6) 装束付(朱)

(朱)「慶五五廿九日若州山本中務入道宗覺ニ尋之所也」

二一

ろうきわう (2) 龍祇王 (3) 無 (4) 有

千しゆしけひら (2) 千手重衡 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

「慶長貳九月十日於但馬ノ湯尋妙佐老所也。彼本、宗節章句之本也」

しねんこし (2) 自然居士 (3) 有 (4) 有 (5) 朱・別朱

「慶三六ノ九以妙佐老本直之」

(別朱)「右以宗節聲句本直之」

せつたい (2) 摂待 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

かうう (2) 項羽 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

二二

たけふん (1) たけ文 (2) 武文 (3) 無 (4) 無

しやうそん (1) しやうそむ (2) 正存 (3) 有 (4) 有 (5) 朱 (6) 装束付

「慶長三年三月十六日於但馬湯以妙佐老一両齋本直之。彼老人本者

觀世宗節聲句本を以被直置本也」

「若州山本中務少輔重忠尋之^{慶長三二月廿三}」(装束付)

ちやうりやう (2) 長良 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

(朱)「以妙佐本直之、彼、宗節被尋本之由也。其後又、大和三位入

道宗恕被尋由也。慶長三年四月十一日」

あしかり (2) 蘆刈 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

「慶長三年三月十八日於但馬湯以妙佐老本直之。彼老人本者、觀世

小次郎元頼以聲句本写之。弟之古津宗印尋之時、宗印以自筆所々

聲付之。又慶長元年極月十二日大和宮内三位入道宗恕尋之時、違

分付之。彼本、測田入玄少被尋之本也」

はちの木 (2) 鉢木 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

「右鉢木、慶長三年三月廿三日於但馬湯以妙佐本直之」

(朱)「淵田与三郎以声句本写之。大和宗恕尋之。彼本、觀世大夫宗節懇_ニ直本ヲ以直之者也。文祿五年仲夏上旬」

二三

しきみ天く(1)しきみてんく(2)櫓天狗(3)無(4)無

せかひ(1)せかい(2)是害(3)有(4)有(5)朱

「慶長三年三月廿日於但馬湯以妙佐老本直之。彼本者、觀世小次郎元頼聲句之本、觀世大夫入道宗節遂一覽直之。此本を以被写之、又宗節稽古_ニ合テ被直之。慶長元年十二月十三日大和三位入道宗恕被尋之被直之_{云々}」

くらまてんく(1)くらま天狗(2)鞍馬天狗(3)有(4)有(5)朱

(6)間狂言

「慶長三年三月十八日於但馬湯以妙佐本直之。彼本云右觀世弥二郎長俊子小次郎元頼弟古津宗印聲句也。朱之分、慶長元年十二月十三日大和三位入道宗恕尋之時付之。彼本、觀世太夫宗節被尋之時節直之本也」

(黄)「右以宗節聲句本直之畢」

なきふとう(1)なき不動(2)泣不動(3)有(4)有(5)朱

(朱)「慶長四年六月八日妙佐老尋之」

「ワキ〇ニテナラス分ハ沼田土佐入道徳斎_ニ尋之者也。慶長四八廿

日於宮津

かつらきてんく(1)かつらき天狗(2)葛城天狗(3)無(4)無

二四

百まん(1)百まむ(2)百萬(3)有(4)有(6)装束付

「慶長三年三月廿四日於但馬以妙佐本直之」

ぬえ(2)〇_ハ鶴に近い字(3)有(4)有(5)朱

「慶長三年六月十一日以妙佐老直之」

小はやし(2)小林(3)無(4)無

いな舟(1)いなふね(2)稻舟(3)有(4)有(5)朱へ一部

あこき(1)あこき(2)赤荻(3)有(4)有(5)朱(6)異文へ朱節付

「慶三三十以妙佐本直之」

二五

せうくん(1)せうくむ(2)昭君(3)有(4)有(5)朱

(朱)「慶長四年六月十二日尋妙佐之者也」

あたち(1)あたちか原(2)安達原(3)有(4)有(5)朱

「慶長三年三月十六日妙佐老以本直之。彼老人本者、文次軒孝阿弥

聲句本を以被直置本也。彼孝阿ミハ能謡タウケン弟子也」

「一、二人ワキト云ハ此コト也ト觀世四郎左吉徳云ト宗シヨ曰」

せうき(2)鐘馗(3)有(4)有(5)朱(6)アイの謡付載

「慶長三年九月五日若州山本中務_ニ尋之_テ替所付之。丹後田辺城中

ニテ」

(朱)「慶長三季極月廿二日於愚庵觀世大夫身愛尋之直之者也」
左近

「此アイノウタイ觀世与三郎ニモ妙佐ヘモ不尋。慶長四年六月七日
忠親

此能アリタル時、田原助左衛門ト云者ワキラセシニ、此アイノウ
タイアリシニ、自然ノ用ニトカ、シメラク者ナリ」へ巻頭朱書、卷
末墨書

太刀堀葵 (1) たちほりあふひ (3) 有 (4) 有 (5) 朱

(朱)「右慶長三極月二日丹後於田邊妙佐老人尋之、頭付以書之」
をた巻 (1) をたまき (2) 麻團巻 (3) 無 (4) 無

二六

清しけ (1) きよしけ (2) 清重 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

さねかた (2) 實方 (3) 有 (4) 有 (5) 朱 (6) 装束付へ朱

「慶長五年五月廿六日若州住人山本中務入道宗覺尋之所也。彼伝、

觀世小次郎」

もとめ塚 (1) もとめつか (2) 求塚 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

(6) 装束付へ朱・墨

「慶長五五月廿六若州中務入道宗覺尋之所也」

もり久 (1) もりひさ (2) 盛久 (3) 有 (4) 有 (5) 朱・別朱

(別朱)「天正九年三月十五日
觀世入道 宗節 (花押)」

ゑひら (2) 簾 (3) 有 (4) 有 (5) 朱・別朱

(別朱)「天正九年三月日
觀世入道 宗節 (花押)」

以右之本直之」

二七

夕顔のうへ (1) 夕かほ (2) 夕顔上 (3) 有 (4) 有 (5) 朱・別朱・黄

「此夕顔、文祿五年九月廿二日大和宮内入道宗恕尋之時、以朱違分
本云
付之。彼本、觀世大夫宗節被尋時直タル本也。」

右一両斎妙佐老本を以、慶長三年二月廿六日直之」

(黄)「右以龍昇院殿御本、紹活聲句直之」

(別朱)「赤紫天正九年三月日 宗節 (花押)」

以此本直之」

よしのしつか (1) よし野しつか (2) 吉野静 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

「慶三三十二妙佐老本ニテ直之」

はしとみ夕顔 (2) 半部夕顔 (3) 無 (4) 無

梅かえ (2) 梅枝 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

「以妙佐老本直之。是慶長三ノ三十二日也」

これもち (内題下朱書「紅葉かりとも云」 (2) 維茂 (3) 有 (4) 有

(5) 朱

「慶長三年三月十八日於但馬湯以妙佐本直之。彼本ニ曰、此紅葉狩

觀世小次郎元頼以聲句本写之。弟古津宗印尋之。又文祿五年十月

十八日大和宮内三位入道宗恕尋之、違以朱付之。彼本、觀世大夫

宗節直之本也」

おはすて (2)伯母捨 (3)有 (4)有 (5)朱・黄 (6)太鼓聞書

(黄)「天正九年三月日

觀世入道 宗節 (花押)

以此本直之」

(朱)「右ヲハステハ歲阿弥少々尋之直之。又慶長元年十一月五日大

和宮内入道宗恕尋之、違分以朱付之。彼本、觀世大夫宗節被尋時直之本也。歲阿弥ト同時ニ被尋之由也。

慶長二十年廿七以妙佐本直之候也」

けんしくやう (1)けむしくやう (2)源氏供養 (3)有 (4)有 (5)朱

袴衣 (1)きぬた (2)礎 (3)有 (4)有 (5)朱

「以妙佐本、慶參三十二直之」

みつやま (2)三山 (3)有 (4)無 (5)黄

(黄)「天正九年三月日 觀世入道 宗節 (花押)

以此本直之」

鳥をひ (1)とりおひ (2)鳥追 (3)有 (4)有 (5)朱・黄 (6)装束付(朱)

(朱)「此黄ニ直ソハニ又以朱カク。是黄ナルカミエニクキタメ也」

(黄)「天正九年三月日

觀世入道 宗節 (花押)

右以此本直之」

(朱)「慶五五廿八日若州山本中務入道宗覺ニ尋之所也」

木曾 (1)きそ (3)有 (4)有 (5)朱 (6)装束付

「若州山本中務少輔重忠ニ尋之。慶長三二月廿二へ装束付。巻頭朱書・巻末墨書」

「慶長三年三月十六日於但馬湯妙佐老一両齋以本直之。彼老人本者宗節以聲句被直置本也」

あたか (2)安宅 (3)有 (4)有 (5)朱

(朱)「慶長二年九月廿四日以妙佐老本直之。

彼本ニ

瀧田和泉入道玄少以聲句本写之。觀世弥次郎長俊子小二郎弟古津宗印尋之。又文禄五年四月下旬之比、大和宮内入道宗恕ニ尋之、違分左ニ少々付之」

うとふ (2)善鳥 (3)有 (4)有 (5)朱 (6)装束付。異文付載。

「以妙佐老本直之。是宗節ニ稽古、以大和三位入道宗恕被尋、被直之本也」

「右之キリ、觀世弥二郎長俊作之。大佑犬鷹ニスギ給前ニテ用捨ノタメト也」へ外の浜風の文句付載の註記。朱節付」

こかう (2)小督 (3)有 (4)有 (5)朱

「以妙佐之本、慶三三十直之」

粉川寺 (1)こ川寺 (2)粉河寺 (3)有 (4)無 (5)後半朱節付「従是宗節

章句写也」へ朱注記

三〇

舟弁慶(1)ふな弁慶(3)有(4)有(5)朱・別朱(6)間狂言〈別朱〉

〔慶長三年六月十一日以妙佐老御本直之〕

〔別朱〕「天文廿四年五月四日 親世大夫 宗節(花押)」

舟はし(1)ふなはし(2)舟橋(3)有(4)有(5)朱

〔慶長三年七月十二日以妙佐本直之〕

〔朱〕「彼本、宗節章句ノ本ヲ以、大和宮内入道宗恕被尋、重而直之

本ト云々」

しきみ塚(1)しきみつか(2)櫓塚(3)無(4)無

山うは(1)やまうは(2)山婆(3)有(4)有(5)朱

〔慶長三年七月廿九日以妙佐直之〕

かんだむ(1)かむたん(2)邯鄲(3)有(4)有(5)朱(6)間狂言

〔慶長三年七月以妙佐本直之〕

三一

よし野夫人(1)よしの天人(2)吉野天人(3)無(4)無

志賀(1)しか(3)有(4)有(5)朱・黄

〔以妙佐老本直之也。慶長三三三十八〕

〔黄〕「天正九年三月日 親世入道 宗節(花押)

以右之本直之」

〔朱〕「本云親世小次郎元頼声句写之。

右志賀、文禄五八月十四日大和宮内入道宗恕尋之、以朱違分付

之。彼本、親世四郎左衛門 吉徳 声句也。大夫宗節ニ被尋時節

又能直之処本也」

野守(1)野もり(3)有(4)有(5)朱・黄

〔黄〕「天正九年三月日 スキウツシ 宗節(花押)

右以平信忠卿此奥書秘本直之者也」

七騎落(1)七きおち(3)無(4)無

女郎花(1)をみなへし(3)有(4)有(5)朱・別朱・黄

〔別朱〕「慶長三八十七以親世小次郎元頼 樹格 声句本直之者也」

三二

佐保山(1)さほやま(3)無(4)無

氷室(1)ひむろ(3)有(4)有(5)朱

〔慶長三年霜八日以妙佐本直之。彼本ニ、右文禄五年六月下旬大和宮

内入道宗恕尋之、以朱直之。親世四郎左衛門ニモ被尋之由」

錦戸(1)にしきと(2)西城戸(3)有(4)有(5)朱

籠太鼓(1)籠たいこ(3)有(4)有(5)朱・別朱へ一部

〔黄〕「天正九年三月日 親世入道 宗節(花押)

以右本直之」

〔朱〕「此籠太鼓、親世弥次郎長俊子小次郎元頼弟古津新右入宗印聲

句也。則宗印ニ尋之。又文祿五年十月十一日大和宮内入宗恕

ニ尋之、違分以朱付之。彼本、淵田泉入玄少声句也。観世大夫

宗節ニ尋之時節以自筆能直之本也。

慶長三十一年七月七日以妙佐老以本直之

天鼓 (1)てむこ (3)有 (4)有 (5)朱

(黄)「天正九年三月日 宗節(花押)」

以右之本直之

「慶長三年九月四日以妙佐本直之」

三三

白鬚 (1)しらひげ (3)無 (4)無

横山 (1)よこやま (3)有 (4)有 (5)朱

景清 (1)かけきよ (3)有 (4)有 (5)朱

「写観小次元頼声句」

「慶長三年七月十八日以妙佐本直之。彼本ニ、宗節以證本写直之」

(別朱)「慶長三年八月廿二日観世小次郎元頼^{紹活}以声句本直之」

(黄)「天正九年三月日 観世入道 宗節(花押)」

以右之本直之

松山鏡 (1)松のやま鏡 (3)有 (4)有 (5)朱・黄

(黄)「右以紹活章句本朱ニテ直之。出ハ此分也」△いかに罪人……

しもとをふりあけて」まで別記節付

「右以朱直之。宗印ニ尋之。

^{本云} 観世小次郎元頼以声句本写之。

^{本云} 観世宗節ニ三度被尋、詞ノ所ヲ被直候本、大和宮内入道宗恕ニ以

在之、詞ナラシテワキニ付之也。ナヌシタル所宗節自筆也。

文祿五年五月上旬ノ比宗恕ニ尋之直也。此本、観小次元頼声句ノ

本也。 慶長三十一年十月十日ニ以妙佐本直之者也」

猩々 (1)しやうく (3)有 (4)有 (5)朱

(黄)「右猩々写観世入道宗節聲句」

(朱)「以朱直分、彼ノ分也。先ニ本ノマ、ハ宗節也」

三四

老松 (1)老まつ (3)有 (4)有 (5)黄(一部)

「慶長三年七十九日以妙佐本直之」

(黄)「右平信忠卿秘本観世入道宗節声句直之」

八嶋 (1)やしま (2)矢嶋 (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長三年七月廿三日以妙佐本直之」

軒端梅 (1)のきはの梅 (3)有 (4)有

「慶長三年七廿三日以妙佐本直之」

(黄)「天正九年三月日 観世入道 宗節(花押)」

以右之本正之

兼平 (1)かねひら (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長三年七月廿五日以妙佐本直之」

藤戸 (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長三年七月廿八日以妙佐本直之」

三五

松尾 (1)まつの尾 (3)無 (4)無

東方朔 (1)とうはうさく (3)有 (4)有 (5)朱

岩船 (1)いはふね (3)無 (4)無

敦盛 (1)あつもり (3)有 (4)有

「慶長三年六月十二日以妙佐老本直之。彼本、観世宗節声句之本ニ

テ能々直之本也」

信夫 (1)しのふ (3)無 (4)無

「永祿六年十月十一日 観世小次郎 元頼 (花押) スキウツシ

大野三郎殿 参

以右奥書本声句吉写之」

三六

維盛 (1)これもり (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長三年正月之比若州山本中務ニ尋之也」

「右以観世七郎声句本写之。自筆奥書云、

天文十九年霜月二日 観世七郎 長治 (花押) スキウツシ

右此本者、大夫元忠節ヲ写、大野三郎殿へ参候也。右如此」

玉井 (1)玉の井 (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長三年九月六日以妙佐本直之」

(朱) 本五「右文祿第五曆仲秋初八大和宮内入道宗恕尋之、以朱直之。彼

本、観世大夫宗節被尋時直之本也」

松虫 (1)松むし (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長三年六月四日以妙佐直之」

葵上 (1)あふひの上 (3)有 (4)有

「慶長三年六月四日妙佐本以直之」

采女 (1)うねめ (3)有 (4)有 (5)朱

「慶三年六月六日以妙佐本直之」

三七

檜垣 (1)ひかき (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長三年三月於但馬湯以妙佐本直之。

彼本云 観世弥次郎長俊聲句本以写之トアリ」

「又宗印ノ被謠通モ書付之也」

泊瀬六代 (1)はせ六代 (3)有 (4)無 (5)別朱

「慶長三年三月十九日於但馬湯妙佐老本を以直之。彼本、大和宮内

三位入道宗恕ニ被尋之由也。又宗恕本ハ弥石源大夫自聲本写之也

云々」

(別朱)「慶長三七月廿一日以花蘭通重而直之。是老父本也」

「花傳抄ノ内蘭曲ノ事也」

室君 (1)むろ君 (3)無 (4)無

遊屋 (1)ゆや (3)有 (4)有 (5)朱へ一部 (6)千野伝書拔書

「慶長三年三月廿一日於但馬湯以妙佐本聲句ヲ写也」

西王母 (1)せい王母 (3)有 (4)有 (5)朱

三八

戀松原 (1)恋の松原 (3)無 (4)無 (6)装束付

貞任 (1)さたゝう (3)有 (4)有 (5)朱 (6)装束付へ朱。後半朱節付。

(朱)「慶五五廿八日若州山本中務入道宗覚ニ尋之所也」

鶴若 (1)つるわか (2)鶴若 (3)無 (4)無

二人祇王 (1)二人きわう (3)無 (4)有

經正 (1)つねまさ (3)有 (4)有

「慶長三年三月廿四日於但馬湯以妙佐本直之」

三九

繪馬 (1)ゑま (3)無 (4)無

浦上 (1)うらかみ (3)無 (4)無 (5)朱へ一部

放下僧 (1)はうか僧 (3)有 (4)有 (5)朱

仏原 (1)仏の原 (2)佛原 (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長三年三月晦日於但馬以妙佐本直之」

長兵衛 (1)長ひやう衛 (3)無 (4)無

四〇

玄上 (1)けん上 (3)有 (4)有 (5)朱 (6)装束付。間狂言。

「是若州山本常陸入道意深盲目書之」(装束付)

花月 (3)有 (4)有 (5)朱 (6)「下カ、リノ程」付載

矢卓賀茂 (1)やたてかも (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長三年六月十二日以妙佐御本直之」

(朱)「右朱之分、觀世弥次郎長俊章句本写之」

楊貴妃 (1)楊きひ (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長三年六月十三日以妙佐老本直之」

(朱)「彼本、宗節声句本ヲ以直之本也」

俊寛 (1)しゅんくハむ (3)有 (4)有 (5)朱

(朱)「慶長四六月十四日妙佐ニ尋之者也」

即、宗節声句ノ本ニテ直之者也」

四一

伏見 (1)ふしみ (3)有 (4)有 (5)朱

一角仙人 (1)いかく仙人 (3)無 (4)無

井筒 (1)井つゝ (3)有 (4)有

「慶長三年三月廿二日於但馬湯以妙佐本直之。彼本ニ、以宗節證本写

直之」

村山 (1)むらやま (6)無章句

楯尾 (1)たて尾 (3)無 (4)無

四二

国栖 (1)くす (3)無 (4)無

藤永 (1)とうゑい (3)無 (4)無

桜川 (1)さくら川 (3)有 (4)有 (5)朱

〔慶長三年三月廿二日於但馬以妙佐本直之〕

関戸早川 (1)せきとはや河 (2)関戸早河 (6)無章句

弘元 (1)ひろもと (3)無 (4)無

四三

ふし太鼓 (1)富士たいこ (2)富士太鼓 (3)有 (4)有

〔慶長三年八十五日以妙佐本直之〕

まんちう (1)まむちう (2)満仲 (6)部分章句

こわた (1)こはた (2)木幡 (3)有 (4)有 (5)朱 (6)装束付〈朱・墨〉

(朱) 〔慶五五廿七若州山本中務入道宗覚ニ尋之所也〕

みなせ (2)水成瀬 (3)無 (4)無

ひはり山 (1)ひはりやま (2)鶴山 (3)有 (4)有 (5)朱・別朱

四四

財施太子 (1)財せ太し (6)詞章・章句不完全

羊 (3)無 (4)無

薨 (1)あさかほ (3)有 (4)有 (5)朱

(朱) 〔文禄二年三月十日以妙佐本写之、重而直之。彼本、大和三位

入道宗恕、観世大夫宗節ニ被尋本ト云々〕

須磨源氏 (1)すま源氏 (6)部分章句

住吉詣 (1)すみよし詣 (3)無 (4)無 (6)異文付載

四五

降魔 (1)かうま (3)無 (4)無

雞 (1)には鳥 (3)無 (4)無

常陸帯 (1)ひたち帯 (3)有 (4)有 (5)朱

(朱) 〔慶長二十月朔尋妙佐者也〕

錦木 (1)にしき木 (3)有 (4)有 (5)朱

〔慶長三年三月廿一日於但馬以妙佐本直之〕

狭衣 (1)さころも (3)有 (4)有 (5)朱

四六

呂后 (1)りよう (3)無 (4)無 (5)朱

小塩 (1)をしほ (3)有 (4)有 (5)朱

〔慶長三年三月廿四日於但馬湯以妙佐本直之。是宗節ノ直本ト云々〕

空蟬 (1)うつせみ (3)無 (4)無

橋姫 (1)はしひめ (6)部分章句

羅城門 (1)らしやう門 (2)綱 (3)無 (4)有

四七

刀 (1) かなた (6) 後半無章句

禪師曾我 (1) せむしそか (6) 無章句。

小袖曾我 (1) こ袖そか (3) 有 (4) 有 (5) 朱 (6) 装束付。

「右小袖曾我以紹活聲句本写之。助成之助字皆削之、以祐字改之。

任之旨皆書祐字也」

「^{本云}右以朱直之。

觀世小次郎元頼以聲句写之。元頼弟古津宗印尋之。文祿第五四月

下旬之比大和宮内入道宗恕尋之、左^ニ直分声付之。

慶長三十一年十月十日以妙佐老本写之者也」

童高野 (1) かるかや (2) 苺萱 (3) 無 (4) 無

酒天童子 (1) しゆ天童子 (3) 無 (4) 無

四八

二人しつか (2) 二人静 (3) 有 (4) 有 (5) 朱・別朱

「慶長三年七月晦日以妙佐本直之。彼本、宗節本ニテ被写之由也」

のゝみや (1) のゝ宮 (2) 野宮 (3) 有 (4) 有

「慶長三年七月晦日以妙佐本直之」

江くち (2) 江口 (3) 有 (4) 有 (5) 朱 (6) 装束聞書

「慶長三年霜月廿三日以妙佐直之。彼本、觀世太夫宗節章句ノ本ニ

引合、以朱直之。此本ハ花崎喜兵へ所ニ在之。又文祿五年十月廿

三日^ニ大和宮内入道宗恕尋之、違分以朱付之。彼本、觀世大夫宗節被尋之時、入念直之本也。江口也」

まつ風むら雨 (1) 松風むら雨 (2) 松風村雨 (3) 有 (4) 有

「慶長三年八月四日以妙佐本直之」

はせを (2) 芭蕉 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

「慶長三年八月二日以妙佐直之」

四九

あつまくたり (2) 吾妻下 (6) 無章句

もんかく (1) もむかく (2) 文寛 (6) 無章句

あたちしつか (2) 安達靜 (6) 部分章句

しつけんさねもり (2) 實検実盛 (6) 無章句

れんしやう (1) れむしやう (2) 蓮生 (6) 無章句

五〇

かんせうしやう (1) かむせうしやう (2) 菅丞相 (3) 無 (4) 無

くるまそう (1) くるま僧 (2) 車僧 (3) 無 (4) 無

かなわ (2) 鉄輪 (3) 有 (4) 有 (5) 朱 (6) 間狂言

「慶長三年十二月十四日以妙佐本直之」

とうかんこし (1) とうかむこし (2) 東岸居士 (3) 有 (4) 有

「慶長三年十二月十四日以妙佐本直之」

せつしやうせき (1)せつ生石 (2)殺生石 (3)有 (4)無 (5)朱

「慶長三年十二月十四日以妙佐本直之」

五一

をかさき (2)岡崎 (3)無 (4)無

はしへんけい (1)はし弁慶 (2)橋弁慶 (3)無 (4)無

なすのよ一 (1)なすの与一 (2)那須野与一 (3)無 (4)無

もちつき (1)もち月 (2)望月 (3)無 (4)無 (6)装束付

「右はな金剛大夫二百余番之六輪集以うつし進入候。餘無御座」

付而如此也

文禄三年九月十四日

前法橋

伊藤安中「へ装束付」

たいふつくやう (1)たい仏くやう (2)大佛供養 (3)無 (4)無

五二

あふむこまち (1)あふむ小町 (2)鸚鵡小町 (3)有 (4)有 (5)朱

「^{本云朱}服部入道 宗節在判

^{本云朱}

主妙佐」

(朱)「^{本云}此謡、大和宮内入道宗恕ニ無章ノ本アリツルニ、宗節始テ章

句ヲ作ル。然者其後取上スシテ失念之由アリテ、人之習候時

ハ宗恕ニ習ヘキ由アリ。予尋ル時モソノ趣ニテ宗恕ニ習之。

^{本云}又慶長元十一月五日ニ又宗恕ニ尋之」

「慶長三年七月十六日以妙佐老本直之」

かよひこまち (1)かよひ小町 (2)通小町 (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長三年八月十七日以妙佐本直之」

^{本云}此通小町、観世弥二郎長俊子小次郎元頼弟古津宗印聲句也。フル

宗印尋之、其後文禄第五曆八月廿日大和宮内三位入道宗恕尋違分

以朱付之。彼本、歳阿ミ聲句也。観世太夫宗節ニ被尋之時、宗節

入念直之本ヲ以付之者也。詞聲句返念^{マツ}を入付之」

そとはこまち (1)そとは小町 (2)率堵婆小町 (3)有 (4)有

「慶長三年八月十九日以妙佐老人本直之」

さうしあらひ (2)雙紙洗 (3)無 (4)無

せきてらこまち (1)せき寺小町 (2)関寺小町 (3)有 (4)有 (5)朱

「慶長三年八月廿日以妙佐本直之」

五三

きようくん (1)けうくむ (2)教訓 (3)無 (4)無

いかりかつき (2)碇被 (3)無 (4)無

大はらこかう (1)(2)大原御幸 (3)有 (4)有 (5)朱

(朱)「慶長四年六月廿四日尋妙佐老人而直之者也」

くまのまふて (1)くま野まうて (2)熊野詣 (3)無 (4)無

せんでい (1)せむ帝 (2)先帝 (3)有 (4)無

五四

まり (2)鞠 (3)無 (4)無

かもものくるひ (1) かも物くるひ (2) 賀茂物狂 (6) 部分章句

かうや物くるひ (2) 高野物狂 (3) 無 (4) 無

こ (2) 園基 (3) 無 (4) 無

みな月はらひ (2) 六月被 (3) 無 (4) 無

五五

ゆき家 (2) 行家 (3) 無 (4) 無

せきはら (1) せき原 (2) 関原 (3) 無 (4) 無

はるちか (2) 春近 (3) 無 (4) 無

ちかたう (2) 親任 (3) 無 (4) 無

はるとき (2) 春時 (6) 無章句

五六

けんさいぬえ (1) けむさい鶴 (2) 現在鶴 (3) 無 (4) 無

むかて (2) 絃 (6) 無章句

こかち (2) 小鍛冶 (3) 無 (4) 無

よりまさ (2) 頼政 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

「慶長三季極月十四日以妙佐本直之者也」

ひきかね (2) 引鐘 (6) 無章句

五七

さい行さくら (1) 西行さくら (2) 西行桜 (3) 有 (4) 有 (5) 朱へ一部

(6) 間狂言。太鼓聞書。

「慶長三年八月廿一日以妙佐本直之」

かつらき (2) 葛城 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

「此葛城、彼本ノ奥付観世弥二郎長俊子小次郎元頼弟古津新右衛門入道宗印聲句也。フル宗印尋之。又文禄第五月廿五日大和宮内三位入道宗

怨尋之之時、付違所以朱付之。彼本、観世太夫宗節被尋時、節能直

之本也

慶長三年八月廿六日以妙佐本直之」

三わ (2) 三輪 (3) 有 (4) 有

「慶長三年八月廿四日以妙佐本直之」

たつた (2) 龍田 (3) 有 (4) 有 (5) 朱

「慶長三年八月廿六日以妙佐本直之」

せひくわん寺 (1) 誓くはん寺 (2) 誓願寺 (3) 有 (4) 有 (5) 朱へ一部

「慶長三年八月廿七日以妙佐本直之」

五八

たうゑん明 (1) たうゑむめい (2) 陶淵明 (3) 無 (4) 無

しやうきせいしゆ (2) 聖義世守 (3) 無 (4) 無

あんし (1) あむし (2) 安字 (6) 無章句

いなり (2) 稻荷 (6) 無章句

むつら (2) 六浦 (3) 無 (4) 無

五九

ともあきら (2) 知章 (3) 無 (4) 無
 むねさた (2) 宗貞 (3) 無 (4) 無
 はこさき (2) 管崎 (3) 無 (4) 無
 のくち (2) 野口 (3) 無 (4) 無
 御筆 (1) こひつ (2) 五筆 (3) 無 (4) 無

六〇

いろこかた (2) 鱗形 (3) 無 (4) 無
 雨月 (1) うけつ (3) 無 (4) 無
 けんさいつね正 (1) けむさいつねまさ (2) 現在經正 (3) 無 (4) 無
 ふかん (1) ふかむ (2) 豊干 (3) 無 (4) 無
 かはつ (2) 蛙 (3) 無 (4) 無
 こもり (2) 木守 (3) 無 (4) 無

曲名索引 (数字はその曲の所収冊次を示す)

ア	綾鼓	一九	岩舟	三五	浦島	三	岡崎	五一	香椎	一一
藍染川	嵐山	四	鵜飼	一三	鱗形	六〇	小塩	四六	柏崎	一〇
葵上	蟻通	二〇	浮舟	五	雲林院	三	小手巻	二五	河水	四
阿漕	案字	五八	雨月	六〇	江口	四八	落葉	七	春日龍神	一四
朝顔	碇潜	五三	右近	一	江島	一一	姨捨	二八	刀	四七
芦刈	池贄	一三	歌占	一〇	箆	二六	大原御幸	五三	合南	一二
吾妻下	韋駄天	一四	空蟬	四六	鳥帽子折↓吾妻下		女郎花	三一	葛城	五七
安宅	一角仙人	四一	善知鳥	二九	絵馬	三九	大蛇	六	葛城天狗	二三
安達 (安達原)	敵島	一一	采女	三六	老松	三四	カ		鉄輪	五〇
安達静	井筒	四一	鷺羽	一	大江山↓酒天童子		杜若	一六	鐘引前↓引鐘	
敦盛	稲舟	三五	梅枝	二七	鷗鷯小町	五二	景清	三三	兼平	三四
海士	稻荷	五八	浦上	三九	大社	一二	花月	四〇	兼元↓熊野詣	

童高野	四七	吳服	一	小林	二四	七騎落	三一	誓願寺	五七	武文	二二
賀茂↓矢卓賀茂		黒塚↓安達		五筆	五九	実検実盛	四九	善界	二三	忠度↓短冊忠度	
賀茂物狂	五四	現在経正	六〇	木守	六〇	兒童	三	関寺小町	五二	太刀堀葵	二五
通小町	五二	現在鶴	五六	維茂	二七	自然居士	二一	関戸早川	四二	竜田	五七
苅萱↓童高野		源氏供養	二八	維盛	三六	信夫	三五	関原(関原与二)	五五	楯尾	四一
蛙	六〇	玄上	四〇	木幡	四三	石橋↓獅子		殺生石	五〇	七夕	一七
菅丞相	五〇	源太夫	一二	サ		舍利	八	摂待	二一	谷行	一七
邯鄲	三〇	元服曾我	九	犀	二〇	酒天童子	四七	蟬丸	七	玉鬘	一〇
咸陽宮	一	碁	五四	西行桜	五七	春栄	二	禅師曾我	四七	玉井	三六
祇王↓二人祇王		恋重荷	五	桜川	四二	俊寛	四〇	千手重衡	二一	田村	八
木曾	二九	恋松原	三八	財施太子	四四	俊成忠度	一五	先帝	五三	丹後物狂	一四
砧	二八	項羽	二一	鷲	一六	鍾馗	二五	草子洗	五二	短冊忠度	一五
教訓	五三	皇帝	一八	狭衣	四五	正儀世守	五八	杂都婆小町	五二	檀風	二〇
清重	二六	降魔	四五	貞任	三八	昭君	二五	夕		親任	五五
清経	一五	高野物狂	五四	佐保山	三二	猩々	三三	大会	七	竹生島	一一
金札	三	護法	五	実方	二六	正尊	二二	泰山府君	三	千引	二
草薙	二〇	小鍛治	五六	実盛	六	白鬚	三三	太施太子↓財施太子		調伏曾我	九
国栖	四二	粉川寺	二九	三笑↓陶淵明		鱸	一四	大仏供養	五一	長兵衛	三九
九世戸	一二	小督	二九	志賀	三一	須磨源氏	四四	大木	一九	張良	二二
熊野詣	五三	小袖曾我	四七	嵯塚	三〇	隅田川	一〇	当麻	一八	土車	五
鞍馬天狗	二三	胡蝶	一六	嵯天狗	二三	住吉詣	四四	高砂	一	鼓滝	四
車僧	五〇	琴	八	獅子	一九	西王母	三七	竹雪	七	綱↓羅生門	

那須与一	泣不動	ナ	鳥追（鳥追舟）	虎送	朝長	知章	土賊	融	道明寺	東北↓軒端梅	東方朔	唐船	道成寺	東岸居士	陶淵明	藤永	天鼓	定家	鶴若	鶴龜	經正
五二	二三		二八	九	一五	五九	一九	一七	一八		三五	一六	二	五〇	五八	四二	三二	一七	三八	四	三八
花筐	花軍	泊瀬六代	鉢木	芭蕉	橋弁慶	橋姫	半部夕顔	羽衣	箱崎	白樂天	ハ	野守	野宮	野口（野口判官）	軒端梅	寝覚	鶴	鶏（鶏竜田）	錦戸	錦木	難波
二〇	六	三七	二二	四八	五一	四六	二七	一六	五九	二		三一	四八	五九	三四	四	二四	四五	三二	四五	六
舟弁慶	舟橋	二人静	二人祇王	伏見	藤戸	富士太鼓	伏木曾我	豊干	弘元	百万	氷室	雲雀山	羊	常陸帶	引鐘	檜垣	班女	反魂香	春時	春近	浜川
三〇	三〇	四八	三八	四一	三四	四三	九	六〇	四二	二四	三二	四三	四四	四五	五六	三七	二	一七	五五	五五	一三
六浦	百足	三輪	御裳溜	水無月菰	水無瀬	三山	通盛	三井寺	満仲	鞠	松浦鏡	松虫	松山鏡	松尾	松風村雨	舞車	マ	仏原	放生川	放下僧	舟の立合
五八	五六	五七	一一	五四	四三	二八	一五	一〇	四三	五四	八	三六	三三	三五	四八	一九		三九	一八	三九	一〇
夜討曾我	楊貴妃	熊野	弓八幡	弓矢立合	遊行柳	行家	夕顔の上	山姥	矢卓賀茂	八島	ヤ	文覚	守屋	盛久	紅葉狩↓維茂	求塚	望月	和布刈	室君	村山	宗貞
九	四〇	三七	一二	一〇	一四	五五	二七	三〇	四〇	三四		四九	六	二六		二六	五一	一三	三七	四一	五九
									籠太鼓	籠祇王	蓮生	輪藏	呂后	羅生門	ラ	弱法師	頼政	吉野天人	吉野静	横山	養老
									三二	二一	四九	一三	四六	四六		八	五六	三一	二七	三三	一八